

作成日2000年11月22日
改定日2015年1月11日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名:	セキスイボンド#75-M
会社名:	積水フーラー株式会社
住所:	〒528-0056 滋賀県甲賀市水口町泉1259
担当部門:	技術課
電話番号:	0748-62-8154
緊急連絡電話番号:	0748-62-8154
FAX番号:	0748-62-8174
緊急連絡先:	上記担当部門
推奨用途及び使用上の制限:	建築用 接着剤 所定の用途以外には使用しないこと
整理番号:	S-226

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性・引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない

	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分1B
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性、麻酔作用)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓) 区分2(神経)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示又はシンボル:**注意喚起語:**

危険

危険有害性情報:

遺伝性疾患のおそれ
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気またはめまいのおそれ
 長期または反復暴露による肝臓の障害
 長期または反復暴露による神経の障害のおそれ

注意書き:

製品安全データシート(MSDS)や取扱説明書などを確認の上、ご使用ください。
 皮膚に付着すると皮膚障害を起こすおそれがあります。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗い、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
 誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、口をすすぐと共に直ちに医師の診断、手当てを受けること。
 皮膚に付着した場合、直ちに汚染された衣類を脱ぎ、多量の水と石鹼で洗うこと。
 取り扱い後は、手洗いを十分行ってください。
 取り扱い作業場所は、局所排気装置を設けて作業をすること。
 防毒マスク又は送気マスク、保護手袋、保護眼鏡を着用すること。
 火花、裸火、高温体などの着火源があるところで使用しないこと。
 使用後の容器は、密栓し涼しく換気の良い場所で保管すること。
 幼児、児童の手の届かない所に、施錠して保管すること。
 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分:	混合物
化学名又は一般名:	変成シリコーン樹脂(一成分形 変成シリコーン系接着剤)
危険有害成分:	エタノール、すず化合物

成分	含有量	CAS番号	官報公示整理番号(化審法)			
変成シリコーン樹脂等 炭酸カルシウム その他	} 97.0~99.0%	非公開	非公開			
エタノール				1.0~2.0%	64-17-5	(2)-202
ジブチル錫化合物				0.1~1.0%	非公開	非公開

不純物として、トリブチル錫化合物(2ppm未満)を含有
ただし、ヒストリブチルスズオキไซด์は含有しません。

4. 応急措置

吸入した場合:	直ちに新鮮な空気のところに移動し安静にする。 頭痛等の異常があれば、直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合:	付着物を拭き取り、水と石鹸でよく洗浄する。 かゆみ、炎症などの症状が出た場合は、速やかに医師の診断を受ける。 皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合:	直ちに清浄な水で15分以上、まぶたの裏側を含めて洗眼した後、 医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合:	直ちに水で口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。 無理に吐かせないこと
予想される急性症状及び遅発性症状:	飲込みによる胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢。 接触による皮膚の刺激と脱脂および眼の刺激、発赤、痛み。
応急措置をする者の保護:	情報なし
医師に対する特別注意事項:	情報なし

5. 火災時の措置

消火剤:	粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、泡消火剤
使ってはならない消火剤:	情報なし
特有の危険有害性:	火災によって刺激性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法:	火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。 延焼の恐れのないように、周囲の設備などに散水して周辺を冷却する。 消火活動は可能な限り風上から行い、有毒ガスの吸入を避ける。 消火活動の際は、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 (8. ばく露防止及び保護措置の項を参照) 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。 風上から作業し、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項:	付近の着火源を取り除き、消化機材を準備し、漏出した接着剤の流出を土砂、

土のうなどで防止する。

漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。

回収、中和:

少量の場合、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。

大量の場合は、火花の出ないシャベルなどで密閉できる容器にすくい取り、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

二次災害の防止策:

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策:

(8. 暴露防止及び保護措置の項目参照)

局所排気・全体換気:

取り扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で取り扱う。

安全取扱い注意事項:

取扱い場所の換気を十分に行い、呼吸器、目、手、皮膚及び身体の適切な各保護具を着用し、直接の接触を防ぐ。

静電気対策のため、装置・機器のアース処置をする。

空気中の水分・湿気により硬化するため、容器開封後は、速やかに全量を使い切るようにする。

取扱い後は、手、顔などをよく洗い、うがいをする。

保管

保管条件:

保管時の温度が5℃以下または、40℃以上とならないようにする。硬化反応防止のため、外気との接触、高温を避ける。

直射日光を避け、湿気の少ない屋内冷暗所に保管する。施錠して貯蔵すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策:

状況に応じ、局所排気装置を設置する。

管理濃度:

データなし

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):

日本産衛学会(2005年版) データなし

ACGIH(2005年版) データなし

TLV-TWA

保護具

呼吸器の保護具:

防毒マスク

手の保護具:

不浸透性保護手袋

眼の保護具:

有機溶剤対応型ゴーグル

皮膚及び身体の保護具:

長袖作業着

衛生対策:

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:

均一なペースト状 色 : 白色

臭い:

ほとんどなし

pH :

測定不可

引火点:

約50℃

発火点:

データなし

比重(密度):	約 1.6 (23°C)
不揮発分:	95%以上
粘度 (23°C):	約 400,000mPa・s (パテ状)
溶解性:	水に不溶
蒸気圧:	該当せず
蒸気密度:	空気より大
沸点:	データなし
融点:	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性:	通常取扱では安定である。
危険有害反応可能性:	現在のところ知見なし。
避けるべき条件:	加熱、加湿、冷凍。
混触危険物質:	現在のところ知見なし。
危険有害な分解生成物:	現在のところ知見なし。

11. 有害性情報

急性毒性(経口):	混合物の推定値ATEmix=6,200mg/kgから区分外に分類される。
急性毒性(経皮):	データ不足のため分類できない。
急性毒性(吸入:ガス):	GHSの定義による個体である。
急性毒性(吸入:蒸気):	混合物の推定値ATEmix=20,000ppmから区分外に分類される。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト):	混合物の推定値ATEmix=12.5mg/Lから区分外に分類される。
皮膚腐食性・刺激性:	データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:	加算方式より混合物として区分外に分類される。
呼吸器感受性又は皮膚感受性:	呼吸器感受性のデータがないため分類できない。 皮膚感受性のデータがないため分類できない。
生殖細胞変異原性:	区分1Bの成分が $\geq 0.1\%$ 以上のため区分1Bに分類される。
発がん性:	データ不足のため分類できない。
生殖毒性:	区分1Aの成分が $\geq 0.1\%$ 以上のため、区分1Aに分類される。
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露):	区分3の成分が1%以上のため、区分3に分類される。
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露):	区分1、区分2の成分が1.0%以上のため、区分1、区分2に分類される。
吸引性呼吸器有害性:	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性:	単純加算法により、区分外とした。
水生環境慢性有害性:	単純加算法により、区分外とした。
オゾン層への有害性:	当該品の成分はモントリオール議定書の附属書に列記されていない為分類出来ない。

13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物:	<p>廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>本品は、70°C以下の引火性成分を含む混合物(特別管理型産廃)に分類される。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p>
--------	---

汚染容器及び包装: 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って産業廃棄物として適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国内規制

陸上規制情報 消防法の規定に従う。
海上規制情報 船舶安全法、海洋汚染防止法の規定に従う。
航空規制情報 航空法の規定に従う。

国際規制

国連番号: 3175
国連分類: 4
容器等級: 2

特別の安全対策

消防法の規定に従う。
転落、又は収納した運搬容器が落下、転倒もしくは破損しないように積載すること。
収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。
運搬中、著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

15. 適用法令

労働安全衛生法: 名称等を通知すべき有害物(法第57条の2)
(エタノール、すず化合物)
名称等を表示すべき有害物(施行令第18条)
(該当せず)
第2種有機溶剤等(有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)
(該当せず)
消防法: 指定可燃物(可燃性固体)
化学物質管理促進法(PRTR法): 該当せず
毒物及び劇物取締法: 該当せず

16. その他の情報

ホルムアルデヒド基準: (日本接着剤工業会)室内空気汚染対策のための自主管理規定
JAIA 001206 F☆☆☆☆
4VOC放散速度基準: (日本接着剤工業会)室内空気汚染対策のための自主管理規定
JAIA-401456-4VOC基準適合 登録品

【用途上の注意】 本品は建築用途向けに開発・製造されたものです。医療用その他特殊用途に使用される場合には、貴社において事前に、その安全性をご試験・ご確認の上、ご使用ください。また、体内に埋植・注入する用途、または体内に一部が残留するおそれのある用途には、絶対に使用しないでください。

引用文献

- 1) 化学物質等安全データシート(MSDS)-第1部:内容及び項目の順序
- 2) 製品安全データシートの作成指針(改訂版)、社団法人日本化学工業協会
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 化学物質の危険・有害性便覧 中央労働災害防止協会
- 5) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253:2012

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成いたしておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする等場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。